

表通り
裏通り

船頭ボランティア いざ、出航!



第1便のお客さんを乗せ、舟を進ませる船頭ボランティア。到着まで、あとひと息です



さおの使い方を教わりました

十七日の練習では、まず、新河岸商栄会の皆さんが、舟の上での立ち方や、こぎ方を説明しました。その後、ボランティアの皆さんが順番に舟をこぐことになりました。

緊張した面持ちでさおを手にした皆さんは、川に落ちないよう、慎重にこぎだします。「前を見る余裕がなかった」「バランスをとるのが難しかった」と、初めは苦戦した様子でした。四時間ほど練習すると、皆さんはぼまつぐ進めるようになりました。

翌十八日の午前十時、本番を前にボランティアの皆さんは、舟をこいで前日教わった内容を復習。

十時三十分、いよいよ最初の乗船客を乗せ、舟は動き出しました。ボランティアの皆さんは二人一組になり、交替で舟に乗り込みます。「お客さんを川に落とすわけにはいかないの、緊張しました」「お客さんに楽しかったと言われ、うれしかったです」と



船頭は前と後ろに二人乗ります。こぐのは後ろの方が担当。舟の先を見ながら前に進めます

十一月十八日、濯紫公園から高沢橋の間で、新河岸川観光舟運が行われました。市では初めての試みとして、今後の観光舟運で船頭を務めてもらうため、船頭のボランティアを広く募集。市内外から、「舟をこいでみたかった」「子どものころに舟に乗っていた」などのきつかけで集まった、中高年を中心とした二十一人の皆さんは、前日の十七日に練習をして、本番を迎えました。



観光舟運終了後のボランティアの皆さん。事故なく終了し、ほっとした表情でした

ボランティアの皆さん。舟を降りた方に、感想を伺うと、「乗り心地がよかったので、初めて船頭を務めたとは思いませんでした」と驚いた様子でした。

およそ七百人の皆さんが楽しんで、今回の新河岸川観光舟運。船頭ボランティアの皆さんは、今後、新河岸川観光舟運や新河岸川桜まつりで、活躍していきます。

自転車の乗り方、再確認

川越市交通安全母の会結成40周年の記念事業として、11月10日に古谷東小学校で「母と子の自転車教室」が行われました。あいにくの雨のため、体育館の中で、傘差し運転や2人乗りなどの実技を行い、危険な運転であることを確認。「体験をすることで、危険をあらためて実感できたのではないのでしょうか。これから地域の皆さんに、交通安全を呼びかけていきたいと思います」と同会会長の鈴木良枝さん(古谷本郷)。



傘差し運転の体験
あくまでも、危険を体験するためのものです

音楽あり、踊りあり、国際交流団体大集合



観客に近づいていき、魅了したバリダンス

クレアパークで11月11日、「かわごえ国際交流フェスタ2007」が開催。この催しは、かわごえ国際ボランティアの会が、市内で国際交流や国際ボランティアの活動をしている団体に呼びかけ、初めて行われたものです。会場には、各団体の紹介コーナーや韓国・タイ・ベトナムなどの料理の出店などが並び、異国の香りが漂います。また、バリダンスやタイダンス、南

米アンデスの民俗音楽、太極拳などが披露されて、音楽に引かれ立ち寄る姿が多く見られました。同会代表の亀田道昭さん(58歳・松江町2丁目)は「私たちも含め、それぞれの団体が活動を紹介する場がありませんでした。今回、多くの皆さんに紹介することができてよかったです。来年以降も、このような催しができればいいですね」と話していました。



留学生によるクイズ大会もありました



この日のつまようじ入れ作りを終えた皆さん

同会の皆さんは、表彰はあくまでも通過点として、今後も難民支援活動や施設などをはじめとする地域での活動に、取り組んでいくそうです。

ボランティアグループ野菊の会
九月に地域社会づくりに貢献したとして、厚生労働大臣から表彰された同会。ボランティア活動や障害者の自立を支援する民間施設・自立の家(笠幡)を拠点に、三十五人のメンバーが、難民支援や老人・障害者施設での大正琴やピアノ演奏などの活動をしています。取材に伺った日は、十一人の皆さんが集まり、つまようじ入れを作っていました。二十五年前から作られている、このつまようじ入れは、協力してくれる店に売ってもらっています。売り上げは難民支援のほか、海外での井戸掘り・学校建設、国内外の災害被災地などへの支援に充てています。「ボランティアという意識ではなく、健康で作業ができることに感謝し、心を込めて作っています」と最高齢の鈴木花子さん(90歳・かすみ野二丁目)。



手作りのつまようじ入れ、表面は和紙です